

意見交換会実施報告書（各種団体）

【3班】

【８班】

開 催 団 体	社会福祉法人薩摩川内市社会福祉協議会			参加人員	7 人	
開 催 日 時	平成28年7月13日（水）10：00～11：40					
開 催 場 所	市総合福祉会館					
出 席 議 員 （ 担 当 ）	議 員 名	出欠	担 当	議 員 名	出欠	担 当
	永山 伸一	○	進行	上野 一誠	○	
	橋口 博文	○		福田 俊一郎	○	
	森永 靖子	○		中島 由美子	○	
	森満 晃	○	記録			

意見交換の内容

（凡例 ◆団体の意見 ◇議員の意見）

・ 社会福祉法人薩摩川内市社会福祉協議会の現状について

《意見交換の概要》

- ◆ 福祉関係における人材確保の難しさがある。介護福祉士や栄養士、保健師、ケアマネジャーなどといった資格を持った専門職が必要であり、新卒を即戦力で使えない。
- ◆ 民間事業者では収支が厳しく経営が難しい施設を、社会福祉協議会が運営している状況である。財政基盤の安定が重要である。（施設経営の安定には70床、甕島など30床は厳しい。）
- ◆ 福祉関係は、これまで公助を中心に事業が行われてきたが、これからは、共助・自助に重きを置いて事業を展開していかなければならない。他の医療関係と連携して事業を展開する必要がある。施設から在宅介護となるため、かかりつけの医師が訪問介護ステーションと連携することが重要である。
- ◇ ふれあい・いきいきサロンでの食事提供について、不特定多数の方が料理作りに参加している状況があるが、万一の場合など社協としてどのように考えるか。
- ◆ サロン数も多く、自治会等が参加しやすい状況等を作ることも必要だが、食事の持ち帰りや衛生面での管理など、各サロンの代表者会議等で注意喚起を呼びかけ、今後検討していく。
- ◇ 財政基盤が安定しない中で、毎年3千万～4千万円程、赤字が増え続けているが、今後の社協の運営において、この赤字をどのように補填していくか。
- ◆ 限られた基金の取り崩しや京セラ福祉基金（協議の上）の取り崩し、当期末支払資金残高（剰余金）の取り崩しなどで補填し、運営している。
- ◇ 施設で働きながら資格を取るのに、どのくらい経費がかかるか。
- ◆ 介護福祉士の資格を取るための全体経費が40万円で、社協の補助が6万円程度である。資格を取るのも難しいが、資格を取っても給料に反映されないのが大変である。社協の強みは、それぞれの資格をもった専門職のスタッフが多くいることである。
- ◆ 甕島敬老園の受託介護事業や訪問介護事業が大変厳しい状況である。甕島地域の場合、ヘルパーの登録がなく、住宅が点在しており、常勤の職員を配置しなければならないため人件費的にも大変である。
- ◆ 社協で地域貢献の事業の在り方、受け皿をどのように作っていくかを検討している。
- ◆ コーディネーターのモデル事業については、平成27年と本年を合わせて12箇所の申込みがある。
- ◇ 香典返しの状況はどうか。
- ◆ 以前と比較すると厳しい状況である。

- ◇ 熊本地震の影響を受けて、地区コミやサロンにおける奉仕団研修の状況はどうか。
- ◆ 前年と比較すると大幅に増えている。週一回のペースで実施している。
- ◇ 職員の支所等の掛け持ちにおける活動範囲・配置等について、一職員の仕事量が多く負担が大きいのではないか。
- ◆ 業務的には、サービスは向上していない。逆に低下している状況である。しかしながら、各支所に一人ずつ職員を配置するまでの業務量ではない。職員の組織・配置については、ワーキングチームをつくり、見直しを進めた。
- ◆ 蘭牟田瀬戸架橋完成後、甑島の医療と介護をどう進めていくのか、市当局・議会合わせて議論をしていただきたい。
- ◇ 甑はひとつ推進会議を立ち上げ、蘭牟田瀬戸架橋完成後の住民生活について、今、議論をしている。また、有人国境離島法を生かし、有人の離島を守ること、船賃の低廉化を図ることなど、国・県を含めた協議が進められているので、議会としてもしっかり対応していきたい。